

L2KTW2

イムライズ 2000

** イムライト 2000XPi

シーメンス・イムライズ
トータルテストステロンⅡ

**■全般的な注意

1. 本品は体外診断用医薬品ですので、それ以外の目的に使用しないでください。
2. 本品の測定結果は、患者の治療歴、臨床症状その他関連する他の検査結果等を考慮して総合的に判断ください。
3. 添付文書に記載されている以外での使用方法については保証しません。
4. ヒト由来成分を含む試薬は、感染性のあるものとして使用ください。
5. 使用する機器の添付文書及び取扱説明書をよく読んでから使用ください。
6. 本品にはアジ化ナトリウム等が含まれます。飲み込むと有害です。誤って目や口に入った場合は、大量の水で洗い流し、必要に応じ医師の診断を受けてください。
7. 適切な手袋及び目/顔防護マスクを使用し測定ください。

■形状・構造等（キットの構成）

1. 抗体固相化ビーズ
抗テストステロンウサギポリクローナル抗体固相化ビーズ
2. 酵素標識抗原試薬
アルカリホスファターゼ標識テストステロン
(ALP標識テストステロン)
3. アジャスターL：処理済みヒト血清
4. アジャスターH：処理済みヒト血清
5. PPD試薬
4-メトキシ-4- (3-ホスフェートフェニル) -スビロ- (1, 2-ジオキセタン-3, 2'-アダマンタン)
(慣用名：アダマンチルジオキセタンリン酸エステル)

■使用目的

血清又は血漿中のテストステロンの測定

■測定原理

本法は、ビーズを固相とした1ステップ競合法に基づく化学発光酵素免疫測定法 (CLEIA) です。
検体中のテストステロン及びALP標識テストステロン (ALP標識抗原) は、競合的にビーズに固相化した抗テストステロンウサギポリクローナル抗体 (固相化抗体) と反応し、固相化抗体-テストステロン複合体 (複合体1) 及び固相化抗体-ALP標識抗原複合体 (複合体2) を形成します。洗浄後、4-メトキシ-4- (3-ホスフェートフェニル) -スビロ- (1, 2-ジオキセタン-3, 2'-アダマンタン) (PPD) を加えると、PPDは複合体2のALPにより加水分解され、発光します。この発光量を測定し、検体中のトータルテストステロン濃度を求めます。

**■操作上の注意

1. 測定試料の性質、採取法
 - 1) 検体には血清又はヘパリン加血漿を使用ください。EDTA加血漿は使用しないでください。
 - 2) 検査に必要な血清又は血漿を得るのに十分な血液を採取し、血清又は血漿を分離ください (1テストあたり検体量として20 μ Lとデッドボリュームとして250 μ L、合わせて270 μ Lの血清又は血漿が必要です)。
 - 3) 乳び検体又は著しく汚染されている検体では、測定エラーが出る可能性があります。超遠心後に測定することを推奨します。
 - 4) 検査前に既に溶血している検体は、注意して測定値を解釈ください。
 - 5) フィブリンによる測定エラーを防ぐため、血清は完全に凝固させてから遠心分離ください。抗凝固療法を受けている患者検体は、凝固時間が延長することがあります。
 - 6) 異なるメーカーにより製造された採血管を用いた場合は、材質、添加物 (ゲルやバリア)、凝固活性因子や抗凝固剤などの違いにより、得られる結果に差を生じる可能性があります。本品は全タイプの採血管に対しての検証は行っておりません。
 - 7) 検体は冷蔵 (2~8℃) 保存で 7日間、-20℃保存で2ヵ月間安定です。
 - 8) 測定範囲上限以上の検体を希釈測定する場合は、マルチ検体希釈液 (2000) (別売品、製品番号：L2M1Z) を使用ください。
2. 妨害物質・妨害薬剤
 - 1) ビリルビンは正の誤差を与える場合があります。
 - 2) 溶血はヘモグロビン濃度として270mg/dL以上では負の誤差を与える場合があります。
 - 3) 脂質は トリグリセリド濃度として500mg/dL以上では負の誤差を与える場合があります。

3. 交差反応

以下の交差反応試験を行い、抗体の特異性を確認しました。

物質	添加濃度 (ng/dL)	交差反応率 (%)
アルドステロン	800,000	0
アンドロステンジオン	10,000	0.6
5 α -アンドロスタン-3 β ,17 β -ジオール	100,000	0.5
5 α -アンドロスタン-3,17-ジオン	100,000	0
5 α -アンドロステン-3 β ,17 β -ジオール	25,000	ND
コルチゾール	800,000	ND
コルチゾン	800,000	ND
ダナゾール	20,000	ND
デキサメタゾン	800,000	ND
デヒドロエピアンドロステロン (DHEA)	1,000,000	ND
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-SO ₄)	100,000	ND
5 α -ジヒドロテストステロン	5,000	2.0
エストラジオール	100,000	ND
エストロン	50,000	ND
エチステロン	5,000	ND
メチルテストステロン	3,000	0.7
ノレチンドロン	5,000	ND
ノレチロドレル	5,000	ND
ブレドニゾン	80,000	ND
プロゲステロン	100,000	0.1
トリアムシノロン	5,000	ND

(ND: 検出感度以下)

4. その他

本品は、イムライズ 2000及びイムライト 2000XPiの専用試薬です。

**■用法・用量（操作方法）

測定機器の取扱説明書及び各試薬の添付文書を参照ください。

1. 試薬の調製方法

- 1) 抗体固相化ビーズ
そのまま使用します。冷蔵 (2~8℃) 保存で使用期限まで安定です。機器のビーズカールセルに装填します。機器にセット後は、90日間安定です。
- 2) 酵素標識抗原試薬
そのまま使用します。冷蔵 (2~8℃) 保存で使用期限まで安定です。バーコードを破損しないように、スライドカバー上部のシールと試薬ウェッジ上部のホイルシールをはがして、スライドカバーをはめ込み、機器の試薬カールセルに装填します。機器にセット後は、90日間安定です。
- 3) アジャスターL/アジャスターH
そのまま使用します。開封後は、冷蔵 (2~8℃) 保存で30日間、-20℃保存で6ヵ月間安定です。
- 4) PPD試薬 (別売)
そのまま使用します。ポトルは使用前に室温 (15~28℃) に戻してから (約20分間放置後)、開封ください。開封後は、室温 (15~28℃) 保存で30日間安定です。
- 5) マルチ検体希釈液 1 (2000) (製品番号：L2M1Z) (別売)
自動希釈を行う場合は、そのまま使用します。
使用の際は、付属のラベルを16×100mm試験管に貼付した後、機器に装填し、機器付属のバーコードリーダーで読み取らせてください。
開封後は、冷蔵 (2~8℃) 保存で30日間、-20℃保存で6ヵ月間安定です。
- 6) イムライズ2000 ブロブ洗浄液 (製品番号：L2PWSM) (別売)

2. 必要な器具・器材・試料等

- ・精製水
- ・コントロール

3. 測定操作法

[イムライズ 2000/イムライト 2000XPi]

抗体固相化ビーズ1個、検体20 μ L及び酵素標識抗原試薬50 μ Lを加え37℃で60分間反応の後、洗浄します。次いで、PPD試薬200 μ Lを加え、37℃で加温にて5分間反応後から5秒間発光量を測定します。同様にアジャスターL及びアジャスターHを用いて操作したときの発光量と対比し、検体中のトータルテストステロン濃度を求めます。

4. 校正

- 1) 新しいロットの試薬を使用する際は、外箱バーコードラベルを用いて、アジャスター (L, H) とキット情報を登録ください。

- 2) 各アジャスターを測定する際は、キットに同梱のラベルを貼付した試験管を機器に装填し、バーコードリーダーで読み込みます。
- 3) アジャスター（L, H）による校正は、各ロット毎あるいは同じロットを長期間使用する場合は1週間毎に行ってください。
5. 精度管理
- 1) 2濃度以上（Low/High）のコントロール等を用いて精度管理を行ってください。
- 2) 機器の取扱説明書に明記されている手順に従って、日々のメンテナンスを実施し機器の性能を適切に維持ください。

■測定結果の判定法

測定結果は、ng/dLで表示されます。

1. 参考基準範囲¹⁾
- 製造元において、健康成人186名(男性と非妊娠女性)における血清検体を本品を用いて測定した結果は以下のとおりです。

(ng/dL)				
	n数	中央値	95パーセンタイル値	絶対範囲
成人女性	排卵期	40	25	ND～ 73
	閉経後	28	26	ND～ 43
成人男性	20～49歳	95	323	160～726
	50歳以上	23	317	129～767

ND:検出感度以下

- ・基準範囲は種々の条件下、各検査室により変動する可能性がありますので、各施設にて適した値を設定ください。
2. 判定上の注意
- 1) ヒト血清又は血漿中の異好抗体は、試薬中の抗体と反応して免疫反応を妨害することがあります²⁾。動物や動物の血清に日常的に接している患者ではこの妨害が発生して、異常値を示すことがあります。本品は測定系への干渉リスクが最小限になるように設定されていますが、まれに血清との相互作用が生じます。
- 2) 診断・治療効果の判定は、本法を含めて関連する他の検査や臨床症状に基づき医師が総合的に判断ください。

■性能

1. 性能
- 弊社の品質管理基準に基づいた値です。
- 1) 感度
- 80ng/dL相当の管理血清と1200ng/dL相当の管理血清を測定するとき、発光量の比（(80ng/dL) ÷ (1200ng/dL)）は2倍以上です。
- 2) 正確性
- 既知濃度の管理血清を測定するとき、既知濃度±20%以内です。
- 3) 同時再現性
- 管理血清を5回同時測定するとき、C.V.は15%以下です。
- 4) 測定範囲：20～1600ng/dL
2. 分析感度：15ng/dL
3. 精度
- 1日に2回の測定を5日間(計10回、80重測定)実施したときの同時再現性は、C.V. 5.1～16.3%で、総再現性はC.V. 7.2～24.3%でした。
4. 直線性
- テストステロン濃度63.8～1,137ng/dLの希釈系列において、回収率は96～114%でした。
5. 添加回収率
- 血清検体に、1:19でテストステロン溶液（3,000、6,000、12,000 ng/dL）を添加した時の回収率は90～124%でした。
6. 相関性試験成績
- 1) 血清を試料とした場合、本法と他法との相関性³⁾は、以下のとおりです（y；本法）。
- n=58、r=0.990、y=1.03x-1.64
- 2) 血漿を試料とした場合、本法と他法との相関性³⁾は、以下のとおりです（y；本法）。
- n=55、r=0.987、y=1.02x+14.57
- 3) 本法と他法（IRMA法）との直線回帰法による相関性は、以下のとおりでした（y；本法）。
- 検体濃度：20～1,200ng/dL
- n=197、r=0.976、y=1.00x+13.3
- 平均値：326 ng/dL（本法）
- 312 ng/dL（IRMA法）
7. 採血管の影響
- 17名から血清用プラスチック採血管（プレーン、SST）と血漿用プラスチック採血管（ヘパリンNa、EDTA）に同量採取し、測定した結果は、以下のとおりです。
- EDTA加血漿=1.78（血清）+47ng/dL r=0.981
- ヘパリンNa加血漿=0.89（血清）+2.3ng/dL r=0.977
- SST血清=0.96（プレーン血清）+4.0ng/dL r=0.976
- 平均値 296 ng/dL 血清
- 266 ng/dL ヘパリンNa加血漿

575 ng/dL EDTA加血漿

288 ng/dL SST血清

8. 校正用基準物質
- 標準品は社内標準物質を用いています。

■使用上又は取り扱い上の注意

1. 取り扱い上の注意
- 1) ヒト血液由来の原料は梅毒、HIV抗体1/2、HBs抗原、HCV抗体に陰性であることを確認していますが、検体及びヒト血液由来の試薬は、HIV、HBV、HCV等の感染の恐れがあるものとして取り扱ってください。
- 2) 検査にあたっては、感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、口でのピペettingは行わないでください。
- 3) 本品には保存剤として0.1%未満のアジ化ナトリウムが含まれていますので、誤って目や口に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けてください。
2. 使用上の注意
- 1) 試薬は貯法に従って保存し、使用期限を過ぎた試薬は使用しないでください。
- 2) 酵素標識抗原試薬は、攪拌により泡ができないように取り扱ってください。
- 3) PPD試薬は以下の事項に留意ください。
- （1）沈殿や濁りは、劣化を示す場合があります。外観に異常のある場合は使用しないでください。
- （2）直射日光に曝さないでください。
- （3）容器にシリンジ針等の異物を挿入しないでください。
- （4）アルカリホスファターゼで汚染しないでください。
- 4) 補充用として包装の項に記載の製品があります。
- 5) 操作に使用する精製水は、蒸留水又は脱イオン水を使用ください。
- 6) 異なるロットの試薬を組み合わせ使用しないでください。
- 7) 同一のロットであっても、試薬の注ぎ足しはしないでください。
3. 廃棄上の注意
- 1) 試料(検体)中にはHIV、HBV、HCV等の感染性のものが存在する場合がありますので、廃液、使用済み器具などは、次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 1,000 ppm、1時間以上浸漬）、グルタールアルデヒド溶液（2%、1時間以上浸漬）等での消毒又は滅菌処理（121℃、20分以上）を行ってください。
- 2) 本品には、保存剤として0.1%未満のアジ化ナトリウムが含まれています。アジ化ナトリウムは、銅や鉛等の重金属と反応して爆発性のアジ化塩を形成することがありますので、廃棄の際はゆっくりと大量の水で洗い流してください。
- 3) 残った試薬や検体を廃棄する場合には、医療廃棄物に関する規定に従って、医療廃棄物又は産業廃棄物等区別して処理ください。
- 4) 試薬類や廃液などが飛散した場合には、拭き取りと消毒を行ってください。

■貯蔵方法・有効期間

1. 貯蔵方法 2～8℃
2. 有効期間 キットの有効期間：9ヵ月
- 各構成試薬の有効期間は包装の項に記載

■包装

製品番号	構成試薬名	包装	有効期間
L2KTW2 (200回)	抗体固相化ビーズ	200個	1年6ヵ月
	酵素標識抗原試薬	11.5 mL × 1	9ヵ月
	アジャスターL	4.0 mL × 1	2年
	アジャスターH	4.0 mL × 1	2年
L2SUBM	PPD試薬	205 mL × 2	1年

■主要文献

- 1) Demetriou JA. Testosterone. In: Pesce AJ, Kaplan LA, editors. Methods in clinical chemistry. St. Louis: The C. V. Mosby Company, 1987: 268.
- 2) Boscatto LM, Stuart MC. Heterophilic antibodies : a problem for all immunoassays. Clin Chem 1988;34:27-33.
- 3) 社内資料
- 4) 吉川典孝 他：全自動免疫化学発光システム「イムライズ2000」、日本臨床検査自動化学会会誌, 23 (3) :199-201 (1998)

■問い合わせ先

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
カスタマーケアセンター
電話：03-3493-8400

■製造販売元

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
*東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー